

## 仲間と共に

J A 富士市女性部 吉原東支部  
綾部明子

私の家には、田畑もお茶畑もないサラリーマン家庭です。私自身も商店街の町中で生まれ育ったので、周りはお店ばかりでした。

住む環境の全く違う浮島地区へ来た時、大変心細い気持でした。私の住む吉原東地区は、富士市の東端、沼津市との境に位置し、お茶と田んぼしかない農村地区です。昔は浮島沼とよばれ、ひとたび大雨が降ると、田んぼ一面が沼になってしまう程、水はけが悪い所です。人口 1,700 人たらずで地域の人達も密接に結び付いていました。どこそこの嫁はどこから来たとか、何人兄弟だとか、まるで市役所の戸籍係のようにお互いの事をよく知っていてびっくりしたものでした。私は朝早く夕方遅くに帰る勤めで、子育てと仕事に追われ地域との関わりを持たず毎日を過ごして来ました。

34 年間の仕事にピリオドを打ち、毎日が日曜日となった時、さて第二の人生をどう過ごそうかと考えました。一つは趣味を持つ事、もう一つは積極的に地域や地域の人達と関わりを持とうと思いました。

まず手始めに、農協女性部の味噌作りに参加する事にしました。手作り味噌は食べた事はあっても作る工程は全く知りません。沢山の味噌が自分にも作れるか？とても不安でした。

一日目、私は蒸し米が入った蒸し機を持ち上げる事が出来ませんでした。

「いいよ、綾部さん持ってやるから、あんた、うちわで米を扇いで。」

私は湯気で汗だくになりながら必死にうちわで扇ぎました。そして、麴菌を混ぜた米を発酵機に入れました。ろくに働かないのにとっても疲れしました。

二日目、大豆をとぎ水に付けました。昨日発酵機に入れた米をほぐします。ぷーんと麴の香りがして米が発酵して来たのが分かりました。ミンチ機械の組み立ては全く分からず全部やってもらいました。

一番重要な三日目、朝七時に大豆を圧力釜にセットし火を付けます。ガスも釜も大きくて火を付けるのもドキドキでした。柔らかくなった大豆を大きなザルに上げたり、麴をタライに移し塩を混ぜたりと、全てが力仕事です。冬にもかかわらず私は汗ぐっしょりでくたくたでした。きわめつけは、ミンチ機でつぶされた味噌を樽に詰める作業です。もたもたしているうちに樽の中にどんどん味噌が溜まって行きます。平らに詰めて行く暇がありません。

「いいよ、綾部さんやってやるよ。あんた、大豆を入れな。」

またまた人のお世話になりながら、なんとか五つの味噌樽が出来上がりました。でも、その味噌樽が持ち上がらず、

「いいよ、綾部さんどの車だい？運んでやるよ。」

自分より幾つもの年配の方に全ておんぶにだっこの最初の味噌作りでした。

なんと情けない、なんて力がないんだろう。皆さん平気な顔をして簡単そうに作業しているのにと、私は自分の不甲斐無さをとても恥ずかしく思いました。そして、毎年これでは困ると思い、それからはなるべく重い物を持ち体を鍛える努力をしました。今ではもう誰も私の味噌樽を車へ運んではくれません。私にも持てるようになったからです。手作り味噌は濃くがあり美味しく、子供達や友達にとっても喜んでもらえます。ちょっとしたお礼や御土産に百均の味噌入れに詰めて差し上げると、どんな高級なお菓子をもらうよりも嬉しいと言われ、続けて来て良かったなと思えました。

そのうち農協女性部の地区班長さんのお話が来ました。何事も経験だと思い、すぐ受けました。班長の皆さん元気で若々しく、会合ではいつも笑いが絶えませんでした。知り合いも増え、家なども覚えることが出来ました。正直言って思ったより行事が多く大変な時もありました。特に農協祭では、いつも販売している物と少し目先を変えてと、頭に被る三角巾とにわたりの鍋つかみも作る事にしました。三角巾は頭の大きさも考慮し、大小二種類作りましたが、布の裁ち方が不経済で沢山の布が必要でした。また、にわたりの鍋つかみは口ばしや鶏冠の付け方で顔の表情が変わり苦労しました。何回か集まったり家に持ち帰ったりと精力的に活動しました。

当日は、100枚以上の天ぷら揚げで、朝五時前から、野菜を切ったり・粉を混ぜたりと大騒ぎで、さながら戦場のようでした。やっと開店にこぎ着けた時はほっとしました。地域の人達が喜んで買ってくださり、作った物が全部売れた時の喜びはひとしおです。狭い浮島地区では農協祭は一大イベント。お祭りを通じて地域の人達との触れ合いが出来る大切な場だと思えました。

一月には持ち寄り発表会があり、主食のケーキ寿司を作る事になりました。酢飯に混ぜる物・はさむ物・飾る物など話し合い試行錯誤を繰り返し、大根やハムを使う事に決定。大根スライスに酢漬けにし、一枚一枚を束ねてバラの花に見立てたり、大根葉をきざんでゴマ油で炒めた物を酢飯に混ぜたりと、結構手の込んだケーキ寿司をやっと完成させました。苦労した甲斐があり皆さんから「きれいだね。」「おいしいね。」と、お褒めの言葉をいただきました。他のお料理も素晴らしく、皆さん良く考えるものだなと感心させられました。完成に至るまでにはきっと材料の工夫やら時間配分など、何度も話し合いや試食を繰り返した事と思います。改めて農協女性部の皆さんのパワーを感じました。

パワーと言えば軽運動会。体育館に集まった人達の熱気に圧倒されました。老いも若きも一丸となって、玉入れの玉が入らないと笑い、デカパンで二人上手に走れないと笑い、ラケットで運ぶボールが落ちたと笑い、勝っても負けても本当に笑いの絶えない楽しい時間でした。一度参加したら また次も出たいなと思える行事でした。

友人や近所の人からよく、  
「農家でもないのに なぜ農協女性部に入っているの？」と、聞かれます。私は、  
「味噌作りは大変だけど、皆に美味しいと喜んでもらえるし、色々な人と触れ合えて楽しいから。」と、答えます。

私は、仕事一筋の生活から一変して農協女性部に入って様々な体験をし、そこからいくつもの発見をしました。それは、私に大きな感動と喜びを与えてくれました。大げさかもしれませんが、それらは、自分の中で大きな宝物となったのです。

農協女性部には、農業を基本とした伝統を受け継いで行く力と創意工夫をこらし新しい物を作り出そうとする力があります。それは、互いに助け合い励まし合う地域の仲間によって生み出されているものです。

農協女性部は、そんな素晴らしい仲間のいる所だと思いました。

ご清聴ありがとうございました。